

令和4年度 旭区運営方針(素案)(抜粋)

経営課題 1

【子育て・教育環境の一層の充実】

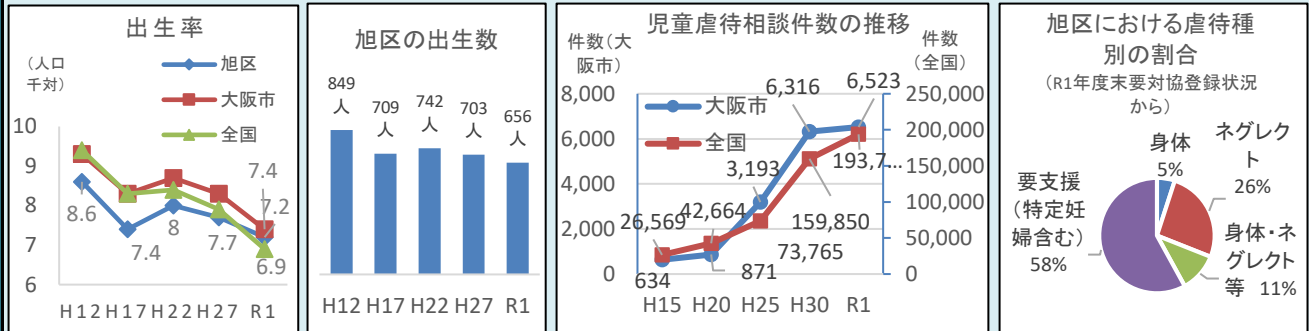


めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながら、子どもを生み、育てられるようなあたたかいまちをめざして、子育て支援を充実させる。家庭の経済状況に関わらず、すべての子どもが健やかに成長し、自らの可能性を最大限発揮できる教育環境の実現を学校や地域と連携しめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【子育て支援について】



・旭区の令和元年度出生率は人口千対7.2、大阪市24区の11番目となっており、経年では減少傾向にある。

・児童虐待事例は年々増加している。
・旭区の児童虐待の特徴として、ネグレクトと要支援で95%を占めている。
・身体的な虐待事例もほとんどが単発、衝動的な軽微なものとなっている。

【子どもへの教育支援について】

令和3年度全国学力・学習状況調査

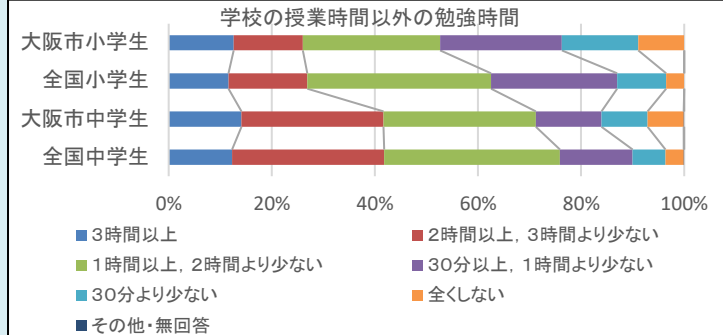
合計 得点	小学6年生			中学3年生		
	国語	算数	計	国語	数学	計
全国	64.7	70.2	134.9	64.6	57.2	121.8
大阪市	63	69	132	61	55	116

平成31年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

合計 得点	小学5年生			中学2年生		
	男子	女子	計	男子	女子	計
全国	53.61	55.59	109.20	41.69	50.22	91.91
大阪市	52.53	54.47	107.00	41.04	50.13	91.17

・「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、大阪市の子どもの学力・体力ともに全国平均を下回っている。

令和3年度全国学力・学習状況調査アンケート



・授業時間以外の勉強を「まったくしない」割合については、全国に比べ大阪府は小中学生とも、より高くなっている。

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【子育て支援について】

・経済的理由や晩婚化などの社会要因により安心して生み育てるという環境基盤が弱いこと少子化の流れは止まっていない。
・一方で子どもの数の減少により一人ひとりを把握しやすいこと、地域での見守りが可能となるが、地域や人との繋がりが少ないことによる育児の孤立化が進んでいる。このため、行政制度や施設、機関、情報等を取るための知識もなく、それらを活用できていない家庭がある。
・以上の要因により、育児手技がなく、子どもを育てる環境が十分ではないことでネグレクトや要支援家庭が増加してきた。
・さらなる子育て支援が必要となっているが、マンパワー不足による児童虐待に対応する専門職の確保が困難となっている。

【子どもへの教育支援について】

・学力・体力の底上げが課題となっているが、自主学習習慣の確立を含め、授業以外での学びの機会が不足していることが考えられる。
・小学生の段階で基礎的な学力に遅れが生じ、その後の学習にますますついていけなくなることが学力不足につながり、その後の社会人としての生活に支障をきたす原因となりかねない。これは、小学生の段階で、経済的な事情などで家庭学習が不十分であることも大きな要因のひとつであると考えられる。
・保護世帯・保護率は、リーマンショック以前と比較し、1.5倍程度と高止まり状態が続いている。また、保護世帯も4世代目となり、貧困の連鎖が続いている状況にある。保護世帯の高止まりの原因は高齢化や不況による正規雇用の減少があるが、一人親世帯と障がい世帯も増加している。

自己評価	課題（上記要因を解消するために必要なこと）
	【子育て支援について】 ・現在、キッズカード、あさひプレパパママサロンやお母さんのほっとタイムなどの子育て支援の区独自の取組として15事業を展開しているが、ポピュレーションアプローチハイリスクアプローチを結合させた取組が必要となる。 ・行政だけではなく旭区全体で子どもの地域見守りを実施するために、「あさひ子育て安心ネットワーク会議」(以下、「キッズネット」という。)が発足して7年が経過し、子育て機関や地域の「顔の見える関係」を築いてきたが、さらに、行政の取組、地域の取組を組み込んだキッズネットを発展させた「あさひ子育て包括支援システム」を構築することによって、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを結合させ、児童虐待の減少及び子育て支援の充実と地域の子育て力アップを図る必要がある。また、キッズネットを「顔の見える関係」からネット等を活用した具体的なシステムとして作っていく。 ・「あさひ子育て包括支援システム」を実現するための基礎となる機関として、旭区役所と中野こども病院(R3.4.1「大阪旭(あさひ)こども病院」に改称)とで「あさひ子育て包括連携協定」をR3.2.24に締結した。 【子どもへの教育支援について】 ・学習習慣を身につけるために、学校・家庭・地域・役所が連携し、子どもの健やかな成長に貢献する必要がある。 ・社会人となっていく際に、それぞれの能力・個性を開花させ自立し、最大限に能力を発揮しながら、社会に参画貢献していくことが求められる。 ・義務教育で習得した教育等をさらに向上し、また、専門的な知識を習得するとともに、対人能力などの社会性をさらに身につけることができる高等学校での教育を受けることが望ましい。 ・家庭や社会の教育力が低下している中、子どもの「居場所づくり等」により、地域で子どもがのびのびと学び、学業不適應を起こさないようコミュニケーション能力を育み高等学校等への進学を進め、スムーズに社会参画できるようサポートすることが求められている。
	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-1 【子育て支援の充実】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間を念頭に設定＞	戦略（中期的な取組の方向性）
	妊娠出産期、乳幼児期それぞれの子育てニーズに応じた取組を行うことによって、安心して子どもを育てられ、地域全体で見守りが行われていると感じるまちをめざす。	・子育ての不安感・負担感を軽減するため、必要な支援・相談体制をつくり、参加や交流を促す。 ・地域担当保健師を軸とした妊娠期から乳幼児期までの総合的な育児・子育て支援体制を構築し、保健師を通じて区役所と親が信頼できる関係性を持ち、子育てに関する様々な相談に対応して社会的資源に繋がっていくなどの家庭支援を推進する。 ・子育て支援機関での「あさひ子育て安心ネットワーク（あさひキッズネット）」を充実させ、地域全体で子育てを支える仕組みづくりを強化することにより、「あさひ子育て包括支援システム」を構築する。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 乳幼児健診時に、子育てに関する相談やサポートに満足している親の割合 令和4年度までに80%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組 1-1-1 【「重大虐待ゼロ」をめざす取組】

		2決算額	8,933千円	3予算額	9,162千円	4算定見込額	9,388千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 乳幼児健診時におけるキッズカードの所持率 50%以上					
	・子どもの虐待リスクの解消及び個別案件に対応するために要保護児童対策地域協議会実務者会議を月例開催する。 ・重大な児童虐待ゼロに向け、アウトリーチを基本としたあさひ子育て見守り事業を実施する。 ・区内子育て支援機関による「あさひ子育て安心ネットワーク（あさひキッズネット）会議」を年3回開催する。 ・キッズカードなどの地区ネットワークの仕組みを発展させた「あさひ子育て包括支援システム」の構築するために、ウェブ上での日常的な団体間のネットワークを強化するICTを活用した「キッズネットⅡステージ」（キッズネットセカンドステージ）の推進、小学生親子の子育て健康管理ツールとして小学校就学時にキッズノートの配布を行う。 ・情報共有やアプローチ、コミュニケーションのツールとなるキッズカードを母子手帳とともに配布し、利用を促進する。	【撤退・再構築基準】 上記割合が30%以下の場合、事業を再構築する。					
		前年度までの実績 ・要保護児童対策地域協議会実務者会議（元年度12回、2年度12回） ・あさひキッズネット会議（元年度3回、2年度2回）					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）

具体的取組 1-1-2

【保健・育児に関する家庭支援の推進】

2 決算額 1,626千 円 3 予算額 4,330千 円 4 算定見込額 4,491千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・地区担当保健師を軸にした妊娠期から家庭支援を推進し、ポピュレーションアプローチとしての妊婦健診、新生児訪問、乳幼児健診等を通じ、乳幼児とその保護者の心身の健康の保持を支援する。 ・発達障がい等の早期の気づきによる早期支援にかかる事業の強化 ・乳幼児健診、赤ちゃん広場、発達相談等の他、乳幼児が集まる場での相談、電話や来所での常設健康相談等、あらゆる機会に臨床心理士が保健師と連携し、発達障がい関係の相談支援を行う。 ・あさひプレバパママレッスン（妊婦の交流会）を休日に開催する。 ・授乳をはじめ、妊娠、分娩の不安や悩み、家族計画等に関する助産師による相談機会として、授乳ケア・育児相談事業を実施する。 ・生後1歳になるまでの育児不安がある家庭に対して、助産師による専門的家庭訪問を実施する。	「常設健康相談」、「乳幼児健診」に来所する保護者にアンケートを実施し、担当保健師及び地区担当制を知っているという割合 50%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が30%未満の場合、事業を再構築する。
		前年度までの実績
		・常設健康相談・赤ちゃん広場に來られた件数 元年度 859件（常設健康相談：680件、赤ちゃん広場：179件） 2年度 574件（常設健康相談：529件、赤ちゃん広場：45件） ・プレバパママレッスン（プレバパママサロン、マタニティカフェ）開催回数、参加者数（1回あたり平均） 元年度 7回（うち4回は土曜日開催） 116人（16.6人） 2年度 2回（うち1回は土曜日開催） 20人（10人）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（ⅰ）取組は予定どおり進捗（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（ⅰ）取組は予定どおり進捗（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	①：目標達成（ⅰ）取組は予定どおり実施（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（ⅰ）取組は予定どおり実施（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）

具体的取組 1-1-3

【子育て支援・相談機能の充実】

2 決算額 923千 円 3 予算額 1,703千 円 4 算定見込額 3,397千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・子育て中のお母さんの負担軽減やストレス解消などの各種講座を開催する。 ・家庭児童相談員による発達障がいに関する相談支援事業や発達障がいに関して保護者の理解を深めるためのワークショップを実施する。 ・子育て相談メールや子育て相談LINEの開設などにより、いつでも保護者の悩みを受け付ける。 ・3歳6か月の乳幼児健診から小学校就学前健診までの期間で、本市として子どもの状況を把握する機会が持てるよう4歳児訪問事業を実施し、4歳児全員に絵本を手渡しして各家庭にアプローチし、健康に対する啓発や育児支援を行う。 ・子どもを育てる環境も準備もないまま出産するなど、多くの支援を要する若年家庭の子育ての現状や課題に対し、中学生の頃から命の大切さと子どもを産み育てることの重大さを伝えるために「命の教育プログラム・リアルケアベビー体験学習」事業を各中学校において実施する。 ・こどもの貧困問題の解消として、こどもの居場所づくりを進めるために「旭区こども食堂ネットワーク会議」を通じて、各地区で開催されているこども食堂の運営主体に対して、資材提供・ファンド等の情報共有や教材配付、ボランティアスタッフの派遣などの支援を実施する。	講座やイベントでのアンケートにおける満足度 70%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 子育ての負担軽減を図る講座 ・ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム（元年度1回、2年度実施せず） ・お母さんのほっとタイム（元年度7回、2年度6回） 発達障がいに関する支援の取組 ・ペアレントトレーニング（元年度1回（7名）、2年度1回（7名）） ・さくらんぼグループ（3歳児）（元年度17回（9名）、2年度12回（6名）） ・プレさくらんぼグループ（2歳児）（元年度13回（13名）、2年度7回（8名）） 子育てに関する情報発信 ・命の教育プログラム「リアルケアベビー体験学習」事業（3年度新規事業） ・子育て情報誌の発行（元年度4回、2年度4回） ・子育てわいわい広場（元年度1回、2年度実施せず） 中学生に対する命や子育てに関する教育 ・幼稚園・保育所（園）情報フェア（元年度1回、2年度Web開催） ・子育て情報誌の発行（元年度4回、2年度4回） ・子育てわいわい広場（元年度1回、2年度実施せず） 子どもの居場所づくり（こども食堂）に関する支援の取組 ・こども食堂ネットワーク会議の開催（元年度6回、2年度4回） ・里親シンポジウムにてパネル展示とこども食堂開設（元年度1回、2年度は里親シンポジウムが中止となったため総合文化祭で展示） ・教員採用にかかる加点制度ボランティア（元年度3人、2年度2人）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 1-2 【子ども自身の生きる力の育成支援】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞	戦略（中期的な取組の方向性）	
	すべての子どもが健やかに成長し、基礎的な知識を習得し、学習習慣を定着させるとともに、人間性や社会性など未来をたくましく生き抜く力を育む。	・小学生及び中学生を対象として、基礎学力向上等の事業を実施する。 ・学習習慣や生活習慣が十分身についていない子どもに対して、学習支援や自尊心・自己肯定感を育ませる事業を実施する。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		
	区役所からの連携や支援を得られていると感じる学校 令和4年度までに小学校全10校、中学校全4校		

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組 1-2-1 【小学生の学力、体力・運動能力向上支援】

		2決算額	5,018千 円	3予算額	7,297千 円	4算定見込額	6,836千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	・小学校児童の学力向上のため、放課後の空き教室を活用して、指導員（地域ボランティアや退職教員等の指導経験者など）を区内小学校に配置し、児童の学習習慣の定着、つまづきの解消および学力向上を目指す「学力アップアシスト事業」を実施する（区担当次長予算）。 ・児童の運動能力及び体力向上のため、区内小学校の対象とする学年で、走り方、跳び方、投げ方等や運動を楽しむための専門的な技術を持つインストラクターによる授業を実施し、児童の体力および運動能力向上を目指す「児童の運動能力等向上サポート事業」を実施する。 ・児童の「プログラミング的思考」等の育みを促進させるため、効果的な教材を配付し、プログラミングの専門的な経験・技術を持つ大学教員等による授業を実施する。	実施校において参加児童の学習意欲の向上や学習習慣の定着、つまづきの解消および基礎学力、体力・運動能力向上について成果があったと感じる学校 100%					
		【撤退基準】 上記割合が70%未満の場合、事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	前年度までの実績					
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	【学力アップアシスト事業】 元年度 10校中9校で実施 登録者数956名 2年度 10校中6校で実施 登録者数395名 【運動能力等向上サポート事業】 元年度 10校中9校で実施 延べ1,267名が出席 2年度 10校中6校で実施 延べ1,054名が出席 【プログラミング体験学習事業】 4年度 新規事業					
	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組 1-2-2

【中学生の基礎学力定着支援】

2 決算額 1,581千 円 3 予算額 1,860千 円 4 算定見込額 1,860千 円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・家庭学習等が不十分で学習の支援等が必要な生徒に対し、支援員による宿題・復習サポートを実施し、自主学習習慣を定着させるとともに、基礎学力の向上を図る「旭ベーシックサポート事業」を実施する（区担当次長予算）。 ・学習の習慣づけや学力アップを目的とし、塾代助成制度を活用した民間事業者との協定事業として「旭塾」を実施する（区担当次長予算）。専用教材を活用し、小学校の教育課程からの復習等、つまづきのある生徒の基礎学力に特化した学習を実施し、学力向上を目指す。		実施校において参加生徒の学習意欲の向上や宿題、自主学習習慣の定着、つまづきの解消および基礎学力向上について、いずれも成果があったと感じる学校 100%	
			【撤退基準】 上記割合が75%未満の場合、事業を再構築する。	
			前年度までの実績 【旭ベーシックサポート事業】 元年度：登録者数166名 2年度：登録者数268人 【旭塾】 元年度：登録者数66名 2年度：登録者数72名	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（イ）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（イ）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（イ）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（イ）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

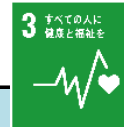
具体的取組 1-2-3

【中学生・高校生の社会的自立に向けた支援】

2 決算額 6,925千 円 3 予算額 6,925千 円 4 算定見込額 6,664千 円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・経済的な要因による家庭環境等の問題により、学習環境や生活習慣が十分でない中高生に対して、安心して学習や相談ができる居場所を提供する。 ・学習支援サポーターによる学習支援を学年別に、集団及び個別で実施し、基礎学力の定着および進学をめざす。 ・食育として、栄養学等や自炊する力をつけるための調理実習と、参加型・ワークショップ形式の学習や討論形式のプログラムを開催し、知識や教養、生活力を身につけることをめざす。 ・学校の勉強についていけない、学校に通う意味を見出せない、学校生活での悩みや将来の漠然とした不安など、家庭内ではできない相談に応じ、退学等による挫折を防ぐ。 ・仕事をしている人や仕事そのものに触れることにより、働くことの意味を学び、進路の選択や決定に必要な能力を育み、自立観を養う。		高校進学した者または事業利用終了した者が、自身が納得する進路に到達していると感じる者 70%以上	
			【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合は、事業を再構築する。	
			前年度までの実績 2年度 参加者中学生19名・高校生24名 3年度 参加者中学生12名・高校生21名（R3.9月末現在） 3年度高校進学率100%	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（イ）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（イ）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（イ）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（イ）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	



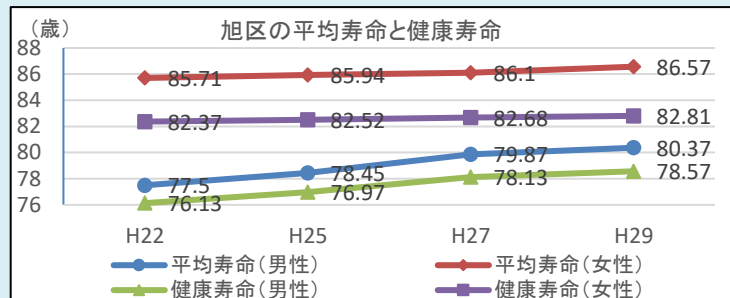
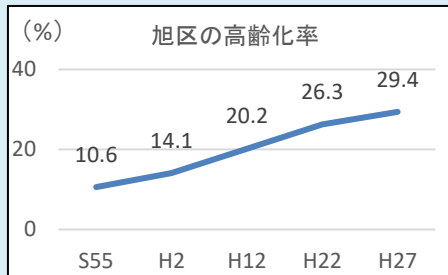
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

健康寿命を延ばし、一人ひとりがいきいきと地域社会の中で生活できるまちをめざす。

障がいのある方や高齢者の皆様などの居場所・持ち場をつくり、誰もが自分らしく、安心してともに暮らせるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【健康寿命を延ばす取組】

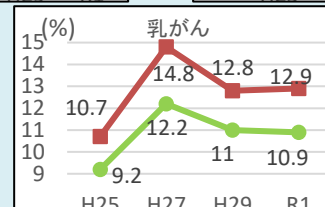
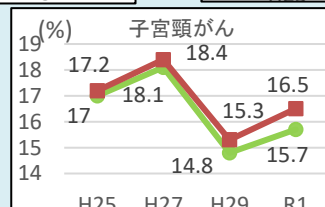
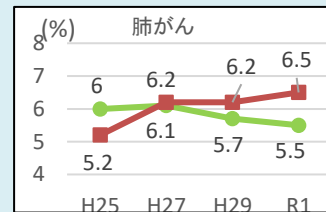
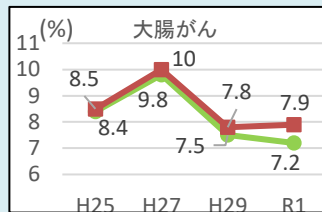
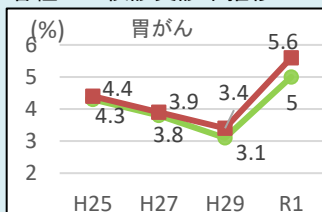


・平均寿命は増加しているが、健康寿命の伸びは鈍化している。

・H28年度から一般介護予防事業として、「いきいき百歳体操」の普及を全区で実施し、旭区では毎年グループ立ち上げの支援を行い、39グループとなったが、コロナ禍で活動が停止し、R3.1現在、活動を再開しているのは18グループに留まっている。

・コロナ禍で引きこもりがちとなり、地域活動やヘルパー利用を控えるなどADL(日常生活動作)が低下している利用が増えてきたとの報告が在宅医療介護連携会議の中であがっている。

各種がん検診受診率推移 旭区 大阪市



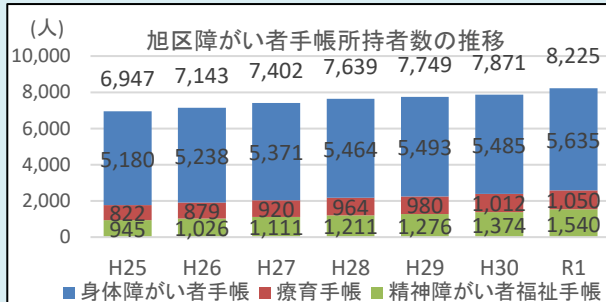
・がん検診の受診率は各検診とも大阪市平均を下回っている。胃がん検診は委託医療機関での実施が受診率の向上につながっている。乳がん検診も増加傾向にあったが、横ばいとなっている。大腸がん、肺がんの検診は、受診率が低下している。

・R2年度はコロナ禍で、8月まで検診を中止しており、再開後も密を避けるということで1回あたりの受診者数を半減させて募集していることから大幅な受診率の減少が見込まれる。

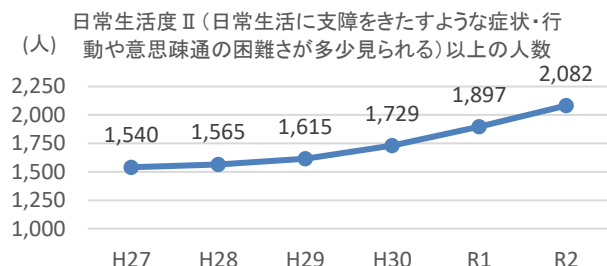
【誰もが暮らしやすいまちづくりのための取組】口

区民アンケートにおいて下記により回答した区民の割合(%)

	H29	H30	R1	R2
障がい者をサポートする仕組みが整っていると思う・ある程度思う	64.1	62	58.6	68.9
高齢者をサポートする仕組みが整っていると思う・ある程度思う	63	61.7	58.7	69.4



旭区認知症高齢者数の推移(居宅)



自己評価	要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）
	【健康寿命を延ばす取組】 ・がん検診の受診率が低下傾向にある中であって、コロナ対策による検診予約定員数の減少があり、受診率向上につなげられる状況にない。 ・区として啓発するマンパワーと機会が減少している。 ・介護事業者等の福祉関係施設等の実態把握が区としてできておらず、連携ができていないことにより介護予防施策の展開が不十分となっている。 ・コロナ禍がもたらした影響は大きく、孤立化する高齢者の課題としてコミュニケーション不足、ADL低下や地域活動の停滞を招いている。 【誰もが暮らしやすいまちづくりのための取組】 ・障がいのある方や障がい者施設の活動については、これまで多くの区民や地域社会との関わりが少なく、結果的に障がい者や障がい事業に関して相互理解や関係構築の場が希薄となりがちであると考えられる。 ・地域のつながりの希薄化など地域社会の変化等により、要介護者を早期に発見したり支援につなげることが難しくなっている。
	課題（上記要因を解消するために必要なこと） 【健康寿命を延ばす取組】 ・がん検診の予約数を限定した実施となることから、本市として3年度から胃がん検診を全面的に医療機関に委託して受診機会を増やし、さらに受診料を集団検診と同額に減額することでより受診しやすくする。また、対象者についても満年齢時ではなく満年齢に属する年度末まで受診可能とすることにより、より分かりやすい申し込み方法に変更し、さらに、前年度自費で受けた者についても検診対象者とすることにより、対象者の拡大につなげる。 ・医師会との連携によりがん検診受診率の向上、健康寿命を延ばす取組が重要となる。 ・健康寿命を区として延ばす施策として、いきいき百歳体操等の地域活動の促進を図るために保健師の派遣など、コロナ感染予防策の普及と活動支援を行う必要がある。 ・介護事業者等の福祉関係施設等の実態を把握し、福祉関係者との顔の見える関係づくりに努め、介護予防事業と介護等福祉関係施設等との連携を進めるために在宅医療介護連携会議の活動を推進する必要がある。 【誰もが暮らしやすいまちづくりのための取組】 ・障がいのある方や高齢者の方等の地域における自立した生活を支援するため、相談場所である障がい者基幹相談支援センター、地域包括支援センターの存在を広く区民に知っていただくとともに、障がい者福祉、高齢者福祉に対する理解促進を図る必要がある。 ・希薄になりがちな地域社会において、社会的孤立を防ぐ手立てと地域における見守り体制の構築が求められる。
自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
	Empty cell for evaluation results

めざす成果及び戦略 2-1 【人生百年時代の健康づくり】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞ ・区民一人ひとりが健康の重要性を意識し、生活習慣病の改善及び早期発見・早期治療を実践する区民の割合を増やす。 ・高齢者一人ひとりが自らの健康に関心を持ち、自らの力で自立した生活ができる高齢者の割合を増やす。	戦略（中期的な取組の方向性） ・医師会・歯科医師会・薬剤師会等区内の関係団体と協力し、健康に関する興味・動機づけを行える催し（あさひ健康フェスタ）を開催する。 ・介護予防のため、「いきいき百歳体操」の新規立ち上げなど、地域における自主活動を支援する。 ・当区実施のがん検診についてコロナ禍にあっても感染防止に努め、1回あたりの受診枠を従前に近づける。また、広報・啓発活動を地域や医師会と連携して進める。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 健康意識の高まりを感じると区民アンケートで答えた区民の割合 令和4年度までに83%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 2-1-1 【健康寿命を延ばす取組】

2決算額 169千円 3予算額 352千円 4算定見込額 354千円

計画	当年度の取組内容 ・区民の健康意識の高揚を図るため、医師会・歯科医師会・薬剤師会及び地域活動協議会等の各種団体と連携して健康フェスタを開催する。 ・区民の健康寿命を延ばすため、がん検診受診について地域や医師会との連携のほか、区広報紙等で周知する。 ・「いきいき百歳体操」のグループに対して、コロナ禍でも活動を継続できるための支援として、新型コロナウイルス感染症への対応方法等に関する正しい知識の啓発や普及を行う。 ・「いきいき百歳体操」普及のために健康フェスタにおいて90歳以上の「いきいき百歳体操」参加者を表彰する。 ・在宅医療・介護連携推進会議を定期開催し、情報共有をはじめ各関係機関と連携する。 ・健康大学を開催し、健康づくり・食育推進のリーダーを養成して、地域に健康のための自主管理の方法を広める。 ・認知症予防の自主活動育成を目的とした「地域型認知症予防プログラム」を実施し、自主活動支援を行う。	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） あさひ健康フェスタの参加者に対するアンケートを実施し、「健康寿命を延ばそうと思う」と答えた方の割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・あさひ健康フェスタ 参加者：元年度、2年度とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず ・いきいき百歳体操 グループ数：元年度 39、2年度 44 参加者数：元年度 959名、2年度 111名 ・認知症予防プログラム修了者 継続グループ数及び人数 元年度 10グループ 61名、2年度 2グループ 実施はなし
----	--	---

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①：目標達成（見込）（ⅰ）取組は予定どおり進捗（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（ⅰ）取組は予定どおり進捗（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	①：目標達成（ⅰ）取組は予定どおり実施（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（ⅰ）取組は予定どおり実施（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）

めざす成果及び戦略 2-2 【誰もが暮らしやすいまちづくり】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間を念頭に設定＞ 障がいをお持ちの方や高齢者の方などの居場所・持ち場をつくり、誰もが自分らしく安心してともに暮らせるまちをめざす。	戦略（中期的な取組の方向性） 複合的な課題のある要援護者や、深刻化するまで気付かれない要援護者等、対応の難しい課題が増加している中、福祉関係機関やNPO法人等と連携を強化するとともに、地域住民への要援護者に対する理解や意識向上に向けた啓発に努めながら地域住民とも連携して見守りや支援の体制を整える。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 障がい福祉サービス利用者を対象としたアンケート実施によりサポートする仕組みが整っており、暮らしやすいまちだと感じる割合 令和4年度までに55%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組 2-2-1 【誰もが活躍できる仕組みづくりの推進】

		2 決算額	835千 円	3 予算額	700千 円	4 算定見込額	759千 円
計 画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	・旭区地域自立支援協議会において、防災をテーマとして障がいのある方への配慮内容を検討しており、その内容を防災マニュアルに反映させるよう働きかける。 ・障がい者福祉事業所の授産製品の物販や、作品展示等の場を提供し、活動の周知を行う。 ・「障がい者週間」（12月3日～9日）に合わせて開催される座談会や交流会を通じて、また区の広報媒体を活用し、障がい者福祉に関する理解を深める啓発活動を行う。			授産製品の物販等の活動している団体や事業所に、活動の支援についてのアンケートを実施 満足度 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が70%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・旭区地域福祉計画の策定 2年度 ・授産製品の物販支援 区役所庁舎内及び「あさひあったかサテライト」における物販 元年度 5月から月1回（3月は中止※） 2年度 6月から再開 区役所庁舎内月2回、サテライト月1回 ・和んで座談会の開催 元年度は中止※、2年度は開催見送り※ ※ 中止及び未開催は新型コロナウイルス感染症の拡大防止による			
中 間 振 り 返 り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
自 己 評 価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組 2-2-2

【誰もが安心して暮らせる仕組みづくりの推進】

2 決算額 495千 円 3 予算額 612千 円 4 算定見込額 722千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・介護や福祉に関する地域の総合相談窓口である地域包括支援センターの存在を広く区民に知っていただく。 ・9月の高齢者月間に併せて、広報あさひ特集号で相談機関等の周知を行う。 ・高齢者等の要援護者が地域で安心して暮らせるよう、見守りのツールとして「お守りカード」・「旭区認知症安心ガイド」を関係機関等を通じて区民に配布し、旭区全体で「ゆるやかな見守り」が行われるよう周知していく。	高齢者の相談機関「地域包括支援センター」を知っていると区民アンケートで答えた区民の割合 55%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が40%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・「地域包括支援センター」認知度 元年度 50.7%、2年度 50.2% ・2年度 広報あさひ9月号に高齢者月間特集記事掲載 " " 旭区認知症安心ガイド改訂、「お守りカード」作成 ・3年度 広報あさひ9月号に高齢者月間特集記事掲載

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組 2-2-3

【「あさひあったかバス」(旭区福祉バス)の運行支援】

2 決算額 7,586千 円 3 予算額 7,700千 円 4 算定見込額 7,800千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	高齢者等に対する区内交通アクセスの確保を目的とした補助事業を継続する。	1月あたりの平均利用者数 4,500人以上 【撤退・再構築基準】 上記人数が2,500人未満の場合、事業を見直す。 前年度までの実績 平成25年度から「あさひあったかバス」を運行 元年度 乗車人数約6,600人/月 2年度 乗車人数約5,500人/月

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)